場所　東京都武蔵野市

面積　2.95ha



活動目的

サイト内の河川・樹林地・草地が周辺の大規模緑地帯などの水と緑のネットワークと連携し、様々な生きものが行き来し生息できる拠点として機能するとともに、居住者や地域住民が身近な生きものとのふれあえる場を創出することを目的として整備し維持管理を行っている。

サイト概要

1959年に建設された住宅団地（17.8ha）のうち、1994年に団地建替事業が開始された建替団地内（8.05ha)の緑地群(2.95ha)。団地建替事業では「緑の継承」「環境への配慮」を基本方針として屋外整備が行われた。保存・移植された樹木を中心としてまとまりのある樹林帯を形成しているほか、住棟間にはタチツボスミレやゲンノショウコなどが群で生育している草地がある。また、「仙川水辺環境整備事業（武蔵野市）」により再生した仙川沿いの敷地を「団地ビオトープ」として整備し「生き物共生エリア」として意識的に維持管理している。サイト内には居住者や近隣住民が身近に生き物の観察ができるよう水辺の観察デッキやサイト内散策路沿いに複数の公園が整備されている。

土地利用の変遷

戦前から戦後期は新田開発農地の一部、団地建設当初でも団地の周囲は畑や樹林が多く残っていた。1994年より団地建替事業が開始され、建替は2006年までに土地譲渡は2010年までに完了している。土地譲渡では、保存樹木の活用を条件にするなど建替エリア（当該サイト）と一体でまとまった緑地が確保できるよう景観ガイドラインが策定された。団地建替事業開始時にはコンクリート3面張りで水もほぼ流れていない状況だった仙川は団地建替事業との一体的な整備により流量確保が可能となりせせらぎ再生が図られた。

サイト周辺の環境

団地の北西に広がる都立小金井公園をはじめ、畑地や屋敷林、仙川、玉川上水、千川上水など、武蔵野の面影を感じさせる自然が多く残る良好な住宅地である。団地建替事業で譲渡された土地は景観ガイドラインに基づき整備され、サイトと連続した緑地が形成されている。

アピールポイント

在来種を含む様々な樹木が植栽され、草地環境・樹林環境・水辺環境で構成されたまとまった緑が形成されている。団地建替事業において、樹木の保存・移植を積極的に行い大径木が多く生育するほか、シードバンクとして表土保全を行っている。緑の拠点として桜堤中央公園や仙川水辺公園が整備され、道や住棟まわりの緑、サイト内を流れる仙川との連携によって水と緑のネットワーク形成に配慮している。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

対象サイト内にある仙川水辺公園には里地里山の植生をモデルとした樹林地、せせらぎ・池、草地が造られ、池の水は雨水を貯留利用し、仙川へ流下している。

定期的に維持管理が行われ、多様な生物の生息環境が維持されている。スミレ類、ゲンノショウコ等、都市部では少なくなっている草本類も確認された。

【主な植生】

樹林地：クヌギ・ヤマザクラ等
池　：ヒメガマ、ミソハギ等
草　地：シバ等

【確認された主な動植物など】

植　物　タチツボスミレ（*Viola grypoceras* var.*grypoceras*）、ゲンノショウコ（*Geranium thunbergii*）、キランソウ（*Ajuga decumbens*）

昆虫類　オオシオカラトンボ（*Orthetrum Melania*）、モンキチョウ（*Colias erate poliographa*）、スジグロシロチョウ（*Pieris melete*）

両生類　トウキョウダルマガエル（*Pelophylax porosus porosus*）（利用者による移入と考えられる）

爬虫類　ヒガシニホントカゲ（*Plestiodon finitimus*）、ニホンカナヘビ（*Takydromus tachydromoides*）、 アオダイショウ（*Elaphe climacophora*）

鳥　類　カルガモ（*Anas zonorhyncha*）、オナガ（*Cyanopica cyanus*）、シジュウカラ（*Parus minor*）、ヒヨドリ（*Hypsipetes amaurotis*）

哺乳類　アズマモグラ（*Mogera imaizumii*）



写真の説明：クヌギ・ヤマザクラ等の樹林



写真の説明：ヒメガマ、ミソハギ等が生育する池

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

サイト内には仙川が流れ、ソメイヨシノ、ケヤキ等が並木になっており、その他、クヌギやヤマハギなど在来種を中心とした多様な樹木が植栽されている。住棟間に草地環境もあり、樹林地、水辺、草地といった生物が生息できる多様な環境が複層的に存在する。桜堤中央公園、仙川水辺公園等複数の公園も整備されており、居住者や近隣住民が身近に自然を感じることのできる環境となっている。

【主な植生】

サクラ並木、ケヤキ並木、クヌギ・ヤマザクラ等の樹林、ヒメガマ・ミソハギ等が生育する池、シバ等の草地

【確認された主な動植物など】

植　物　タチツボスミレ（*Viola grypoceras* var.*grypoceras*）、ゲンノショウコ（*Geranium hunbergii*）、キランソウ（*Ajuga decumbens*）

昆虫類　オオシオカラトンボ（*Orthetrum Melania*）、ヤマトシジミ（*Zizeeria maha argia*）、ジャコウアゲハ（*Atrophaneura alcinous alcinous*）

両生類　トウキョウダルマガエル（*Pelophylax porosus porosus*）（利用者による移入と考えられる）

爬虫類　ヒガシニホントカゲ（*Plestiodon finitimus*）、ニホンカナヘビ（*Takydromus tachydromoides*）、アオダイショウ（*Elaphe climacophora*）

鳥　類　カルガモ（*Anas zonorhyncha*）、オナガ（*Cyanopica cyanus*）、シジュウカラ（*Parus minor*）、ヒヨドリ（*Hypsipetes amaurotis*）

哺乳類　アズマモグラ（*Mogera imaizumii*）



写真の説明：ニホンカナヘビ（団地内で撮影）



写真の説明：仙川水辺公園

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

サイト内には仙川が流れ、ソメイヨシノ、ケヤキ等が並木になっており、その他、クヌギやヤマハギなど在来種を中心とした多様な樹木が植栽されている。住棟間に草地環境もあり、樹林地、水辺、草地といった生物が生息できる多様な環境が複層的に存在する。特に「生き物共生エリア」として意識的に管理をしている仙川水辺公園で希少な動物種が確認されている。

【確認された希少種】

2023年に実施した調査の際に以下の希少種（環境省レッドリスト、東京都レッドリスト記載種）が確認された。

なお、人為的に植栽されたものや利用者により移入されたと考えられるものは含めない。

爬虫類
ヒガシニホントカゲ（*Plestiodon finitimus*）　都RDB（北多摩）：VU
ニホンカナヘビ（*Takydromus tachydromoides*）　都RDB（北多摩）：VU
アオダイショウ（*Elaphe climacophora*）　都RDB（北多摩）：NT
鳥類
オナガ（*Cyanopica cyanus*）都RDB（北多摩）：NT



写真の説明：ニホンカナヘビ



写真の説明：オナガ

生物多様性の価値

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

対象サイトの樹林地、草地、池等で昆虫類の採餌行動や幼虫が確認されたこと等から採餌、繁殖に適した環境が存在することが見て取れる。また、並木、植え込み、草地等で鳥類が休息、繁殖、採餌をする様子が確認された。

【対象となる動物種とその動物種の生活史の内容】

①昆虫類〔利用している生活史：繁殖、採餌〕
繁殖：コシアキトンボ（*Pseudothemis zonata*）、オオカマキリ（*Tenodera sinensis*）、クサキリ（*Ruspolia lineosa*）、シバスズ（*Polionemobius mikado*）等

採餌：イチモンジセセリ（*Parnara guttata guttata*）、ヤマトシジミ（*Zizeeria maha argia*）、クロアゲハ（*Papilio protenor demetrius*）、モンキチョウ（*Colias erate poliographa*）、スジグロシロチョウ（*Pieris melete*）、モンシロチョウ（*Pieris rapae crucivora*）

②鳥類〔利用している生活史：休息、繁殖、採餌〕
休息：水辺で休息するカルガモが確認された。樹木の幹や枝で休息するキジバト（*Streptopelia orientalis*）、コゲラ（*Dendrocopos kizuki*）、オナガ（*Cyanopica cyanus*）、シジュウカラ（*Parus minor*）、ヒヨドリ（*Hypsipetes amaurotis*）、メジロ（*Zosterops japonicus*）、ムクドリ（*Spodiopsar cineraceus*）等が確認された。

繁殖：14号棟南側の草地や6・7号棟北側の立体駐車場付近の並木では、シジュウカラの親鳥が巣立ち間もない雛に給仕するのが確認された。　15号棟南西に位置する草地では、ムクドリの巣材運搬が確認された。

採餌：キジバト、ヒヨドリ、シジュウカラ、スズメ（*Passer montanus*）等が調査範囲内の草地を利用していた。



写真の説明：コシアキトンボの幼虫



写真の説明：水辺で休息するカルガモ

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容

①樹木管理
・実施時期：春季剪定（4～7月）夏季剪定（8～11月）
　　冬季剪定（12～2月）病害虫駆除（発生の都度剪定防除）
・管理内容：樹木の剪定、団地環境整備と連動したサクラの更新
②地被管理
・実施時期：芝生刈込（4月下旬～5月下旬,7月中旬～下旬、
　　9月上旬～中旬、11月中旬～下旬の年4回）
　　手抜き除草（7月中旬～下旬　年1回）
・管理内容：芝生の刈込み,手抜き除草、外来種の選択的駆除
③生き物共生エリアの管理（仙川水辺公園内）
・実施時期：夏季剪定（７月～８月）冬季剪定（11月～２月）
　　雑草刈込（４月～５月,７月,11月～12月）
　　水草刈り・間引き（７月～８月,12月～１月）
　　落葉除去（12月～１月）
　　水循環施設点検（年１回）池,流れの清掃（年１,２回）
・管理内容：樹林地（高中木・低木整姿工、雑草刈り、除草、
　　周知看板設置）
　　草地（高中木・低木整姿工、芝刈り、雑草刈り）
　　水辺（高中木・低木整姿工、雑草刈り、水草刈り、
　　落葉除去、水循環施設点検、池,流れの清掃・浚渫）

【実　施　体　制】
屋外緑地空間管理の専門職（グリーンマネージャー）を配置したうえで、有資格者配置を条件として総合評価方式入札により決定した企業が管理作業を実施（3年に1度公募）

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】
①景観
②植物：植生、植物相
③動物：鳥類、昆虫類（チョウ、トンボ、バッタ類）、
　　その他（両生類・爬虫類・哺乳類）

【モニタリング場所】
対象サイト内全域の緑地

【モニタリング手法】
景観、植生：定点で写真撮影、目視確認
植物相：現地踏査、種の目視確認
動物：現地踏査、目視、声による種の確認
希少種を確認したら、位置、個体数を記録

【モニタリングの実施時期及び頻度】
5年に１度程度の頻度で、次の時期に実施
①景観　秋
②植物　植生：秋、植物相：春、秋
③動物　鳥類：初夏、冬　昆虫類：夏、秋　ﾄﾝﾎﾞ類の幼虫　初夏、冬

【モニタリング実施体制】
有資格者配置を条件として総合評価等方式の入札により決定した企業が配置する専門調査員が実施